
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 3月6日～3月12日

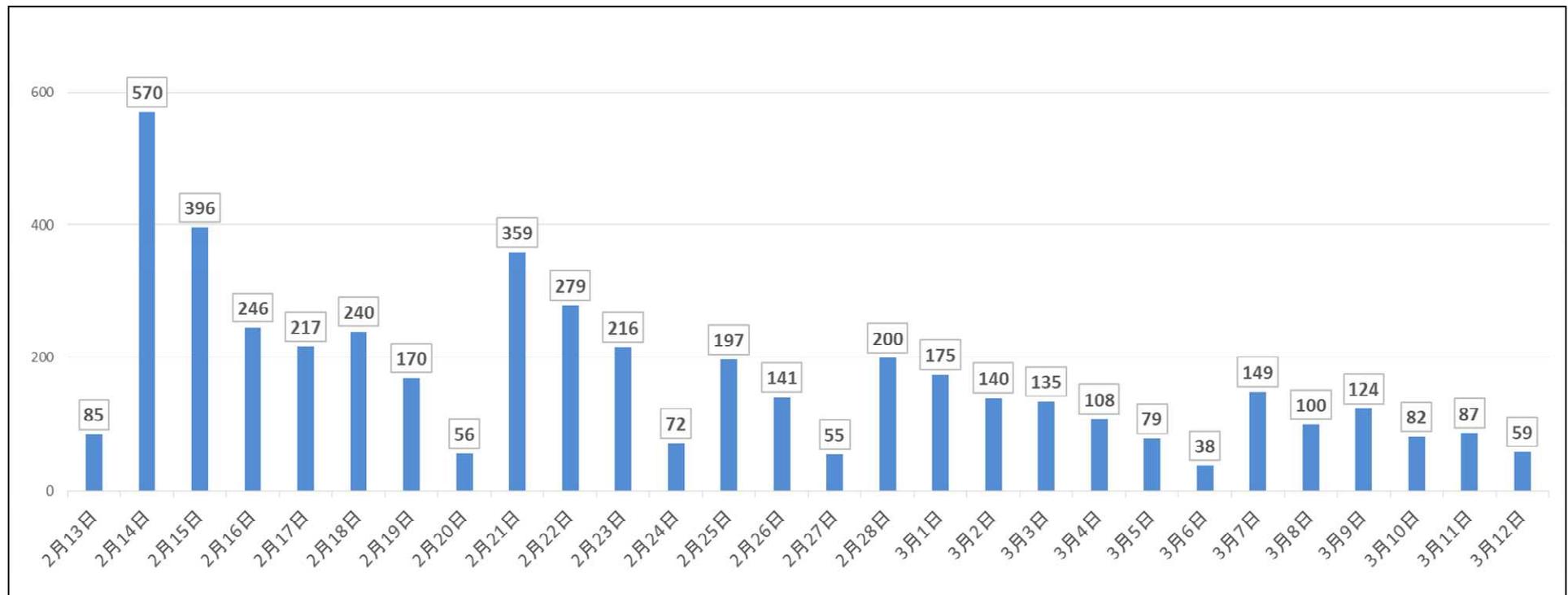
3月14日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

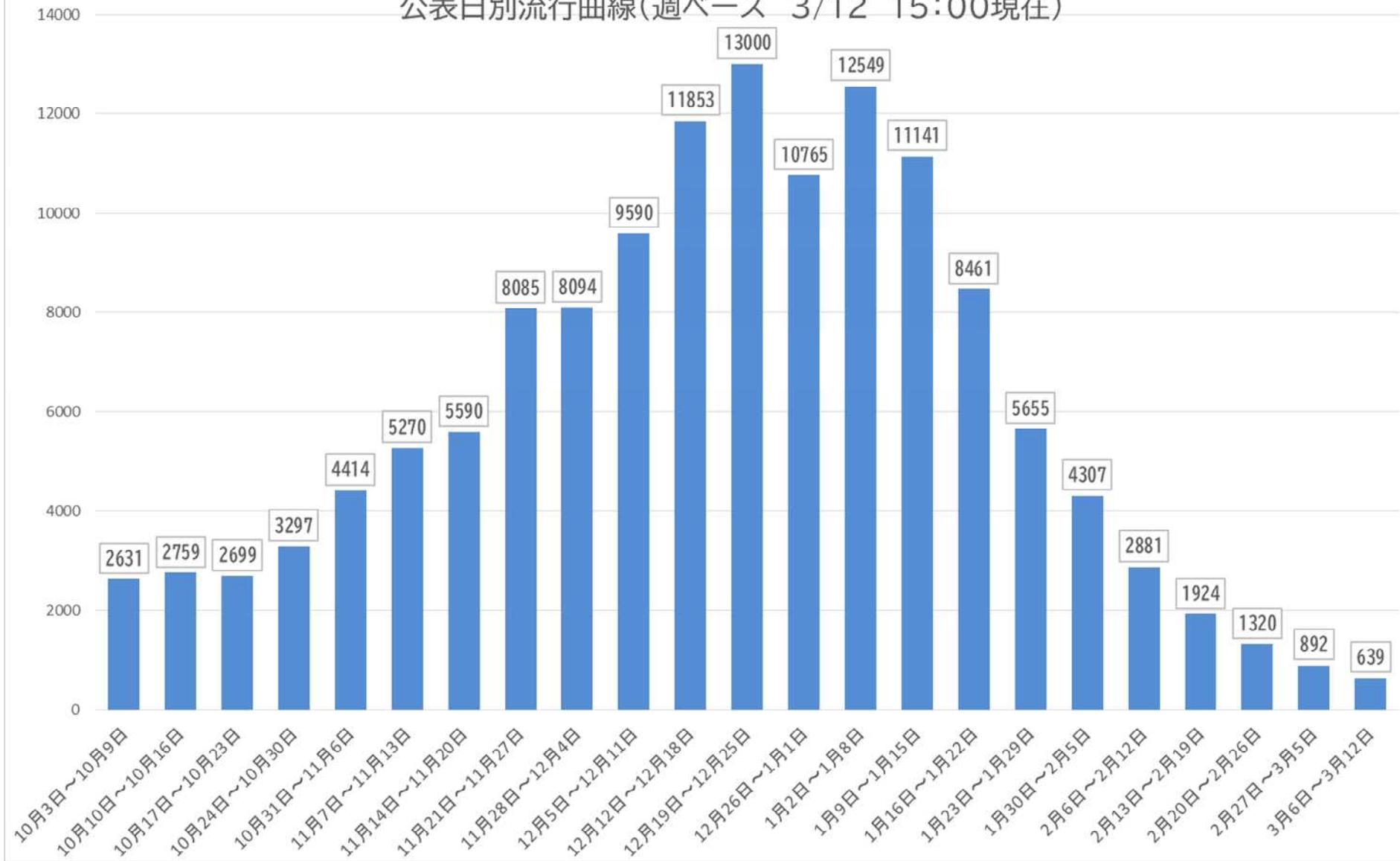
1) 県内の陽性者発生状況

	新規感染者数
今週の報告数(3/6~3/12)	639人
累計(3/12現在)	372,257人

2) 公表日別感染動向(3/12現在)



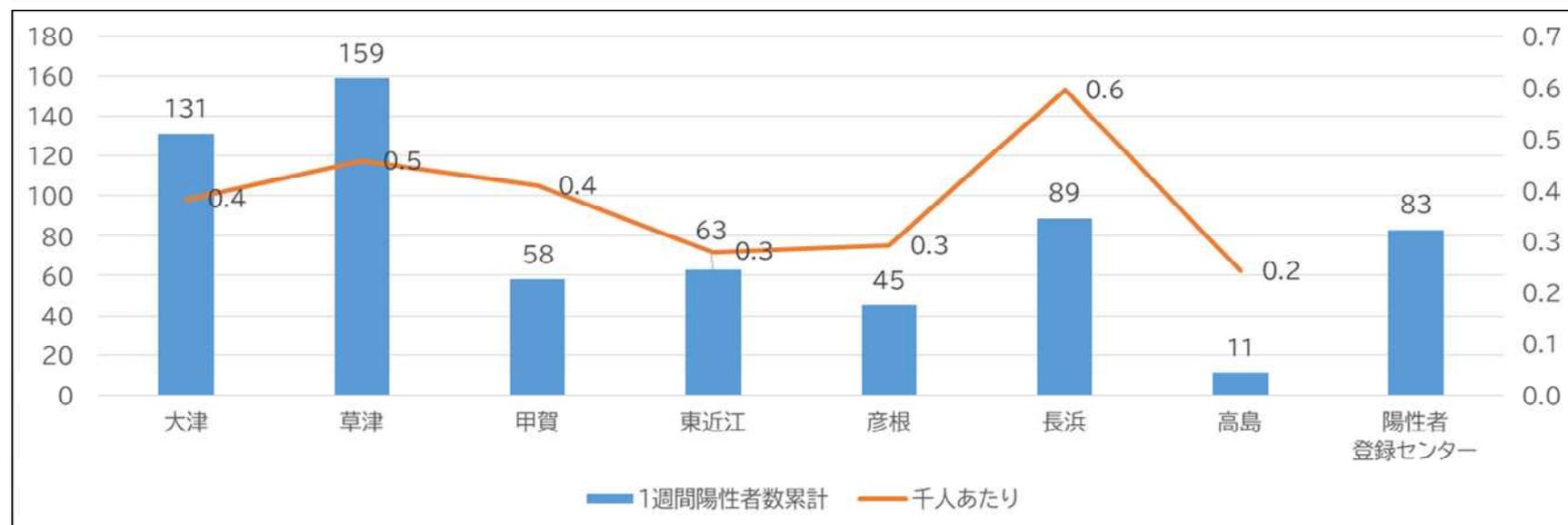
公表日別流行曲線(週ベース 3/12 15:00現在)



3)医療圏別の陽性者発生状況(3/12現在)

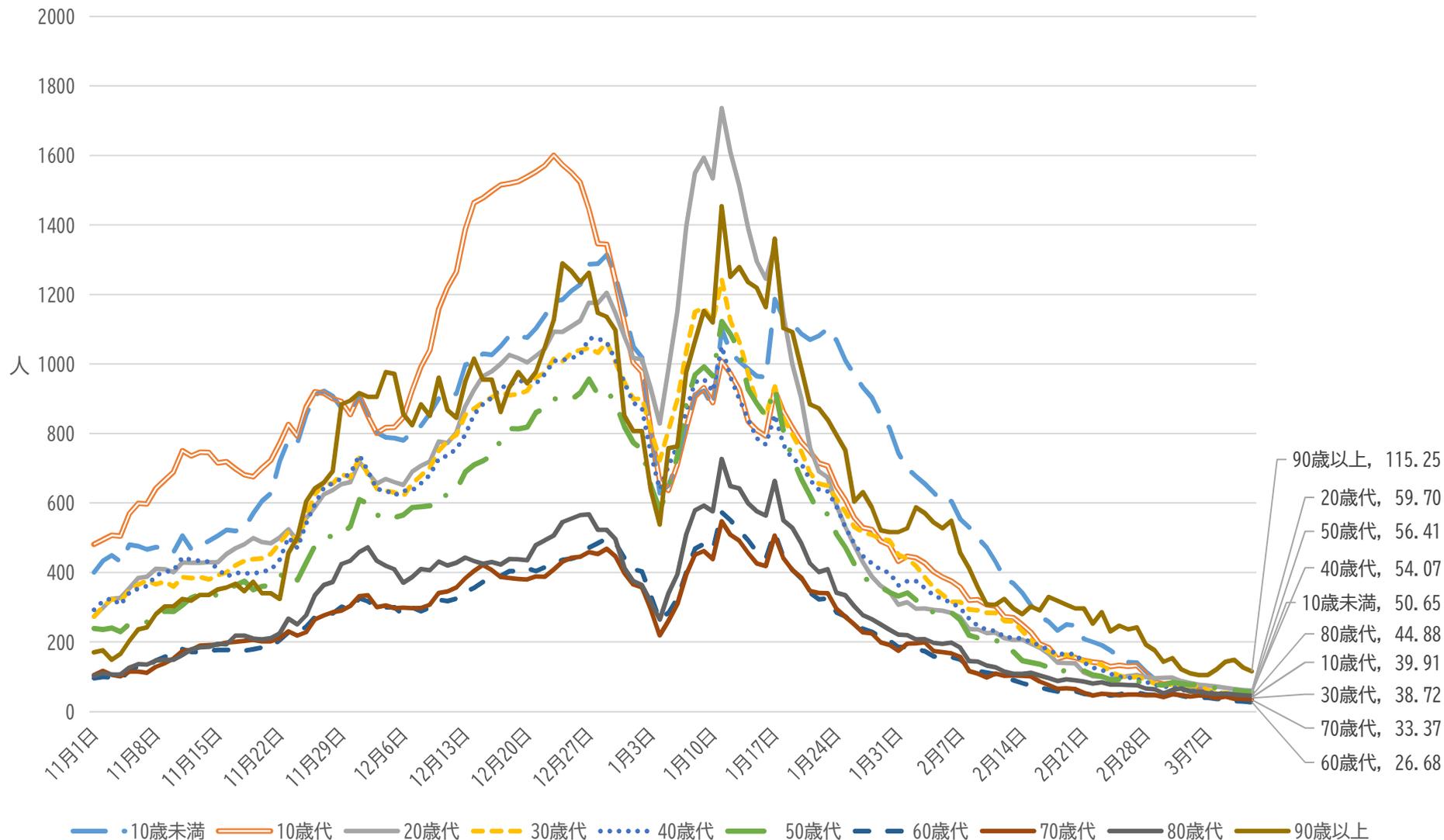
※報告医療機関の所在地別集計であり、実際の患者の居所と一致しない場合があります。

	大津 (大津市)	草津 (草津市・守山市・ 栗東市・野洲市)	甲賀 (甲賀市・湖南市)	東近江 (東近江市・近江 八幡市・日野町・ 竜王町)	彦根 (彦根市・愛荘町・ 豊郷町・甲良町・ 多賀町)	長浜 (長浜市・米原市)	高島 (高島市)	陽性者 登録センター	合計
3月6日	2	2	4	0	1	18	0	11	38
3月7日	29	41	14	17	14	19	3	12	149
3月8日	23	20	10	6	9	17	1	14	100
3月9日	26	43	8	13	2	9	1	22	124
3月10日	20	15	9	9	12	7	4	6	82
3月11日	15	22	8	12	5	11	2	12	87
3月12日	16	16	5	6	2	8	0	6	59
合計	131	159	58	63	45	89	11	83	639

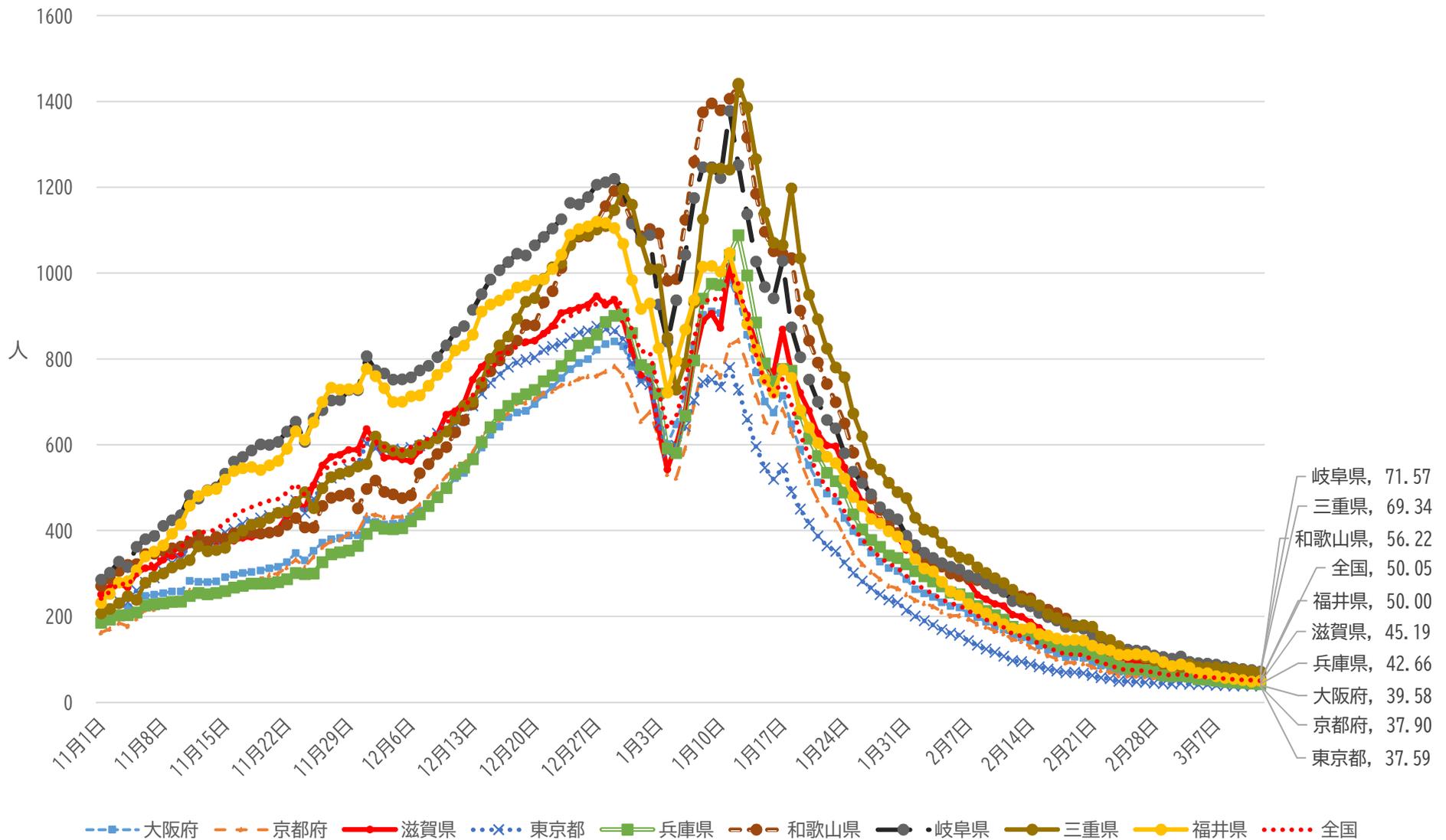


4) 年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数) (R4.11/1 - R5.3/12)



5) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移 (直近7日間の累計患者数) (R4.11/1 - R5.3/12)



2、県内の感染状況・各指標の状況について(3/12現在)

1)県内の病床数および宿泊療養施設の状況

病床数	入院者数			空床数
		県内発生	その他	
416	67	65	2	349

宿泊療養 部屋数	療養者数			その他	空数
		県内発生	県外発生		
518	7	7	0	16	495

2)県内の陽性者発生状況

陽性者累計	入院患者 (県内発生)				死亡
		軽症	中等症	重症	
372,257	65	44	20	1	669

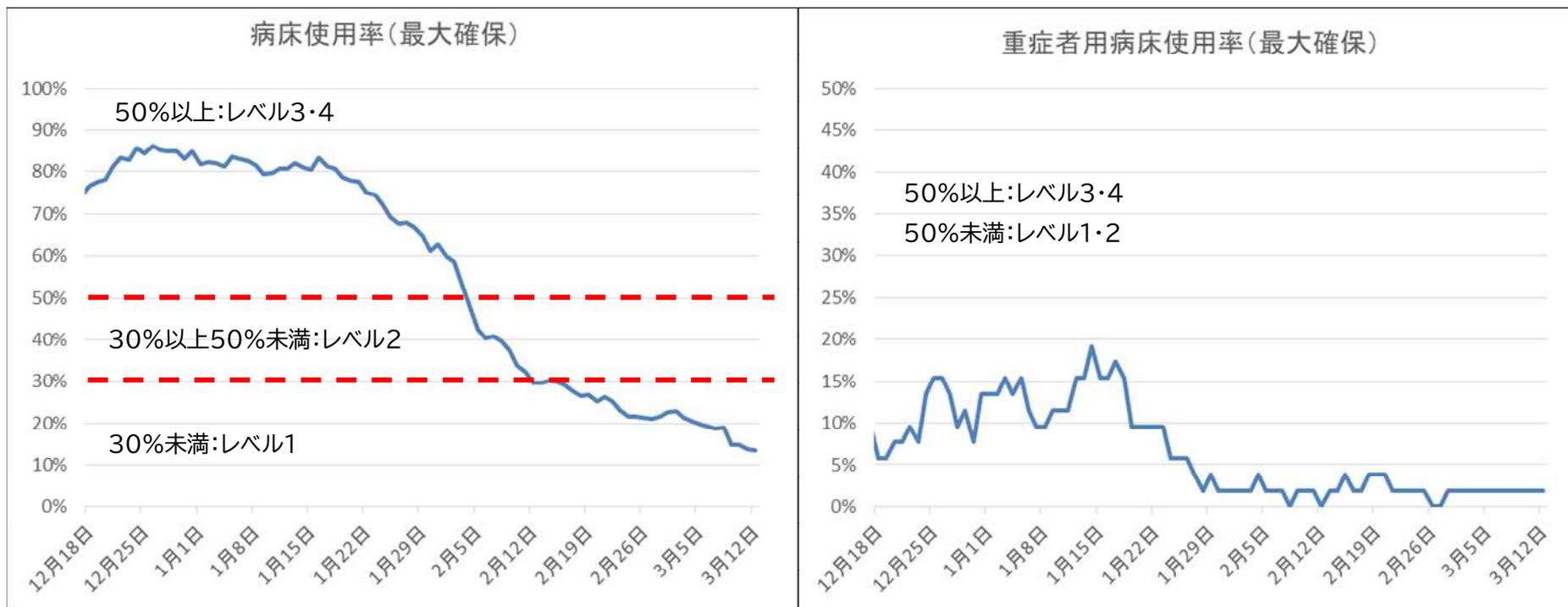
重症:ICUに入室または人工呼吸器・ECMO(体外式膜型人工肺)が必要
 中等症:酸素投与が必要

3)各指標の状況

現時点の確保病床の占有率※1	16.1%
最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※2	13.4%
うち重症者用病床の最大確保病床の占有率(レベル判断指標)※3	1.9%
直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数	45.2人
直近1週間と先週1週間の陽性者数の比較※4	少ない
直近1週間のPCR等陽性率※5	10.5%
PCR等検査数(直近1週間分)	6,473件
PCR検査数(累計)	1,366,719件

- ※1 現時点の確保病床の数、416床に対する割合
- ※2 ピーク時に確保予定である病床数、501床に対する割合
- ※3 ピーク時に確保予定である病床数、52床に対する割合
- ※4 直近一週間の陽性者数が先週一週間に比較し多いか少ないか記載
- ※5 報告受領件数(抗原検査を含む)に基づく陽性率(自己検査・無料検査は含まない。)

4)各レベル判断指標の推移

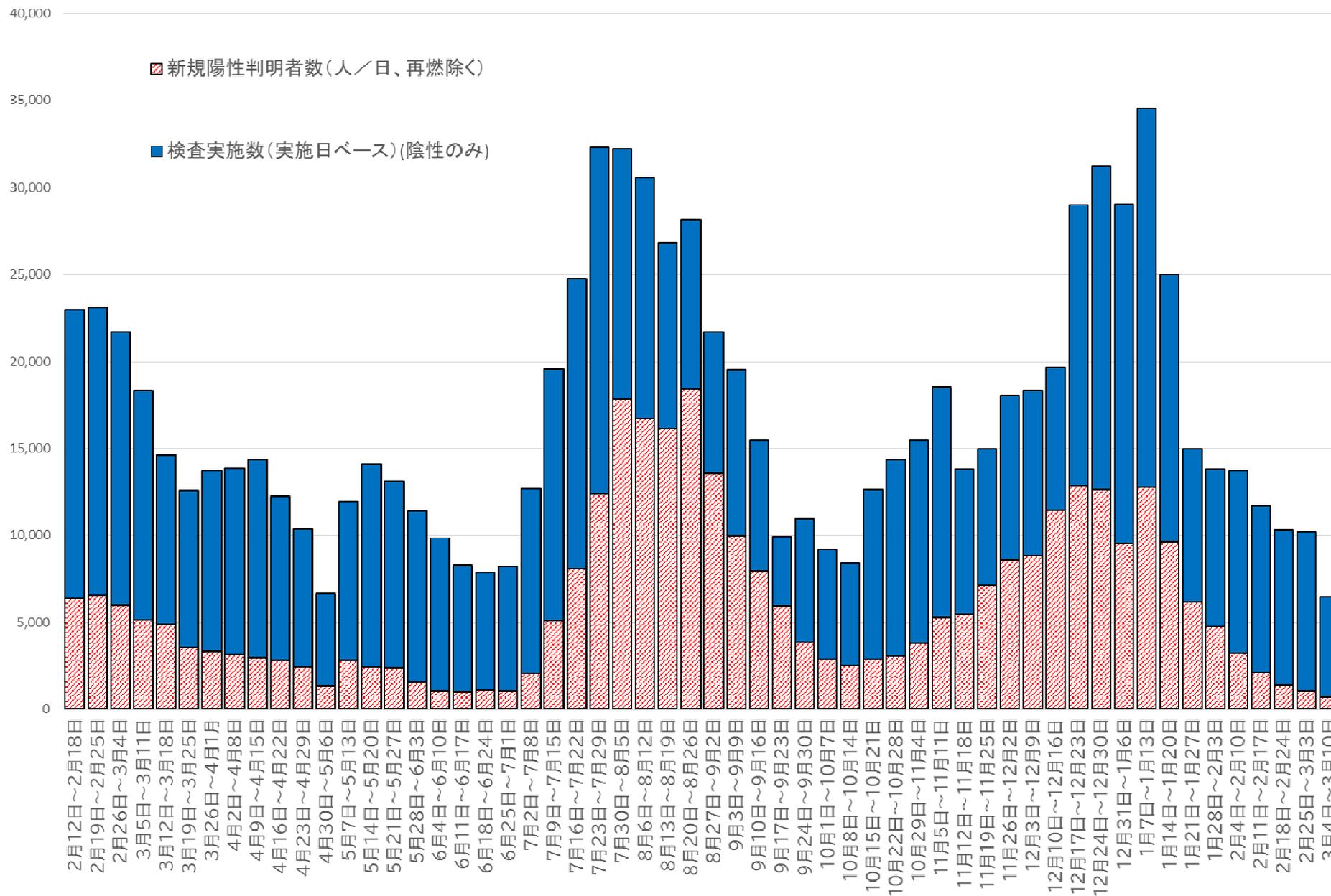


5)陽性率の推移(7日間移動平均)



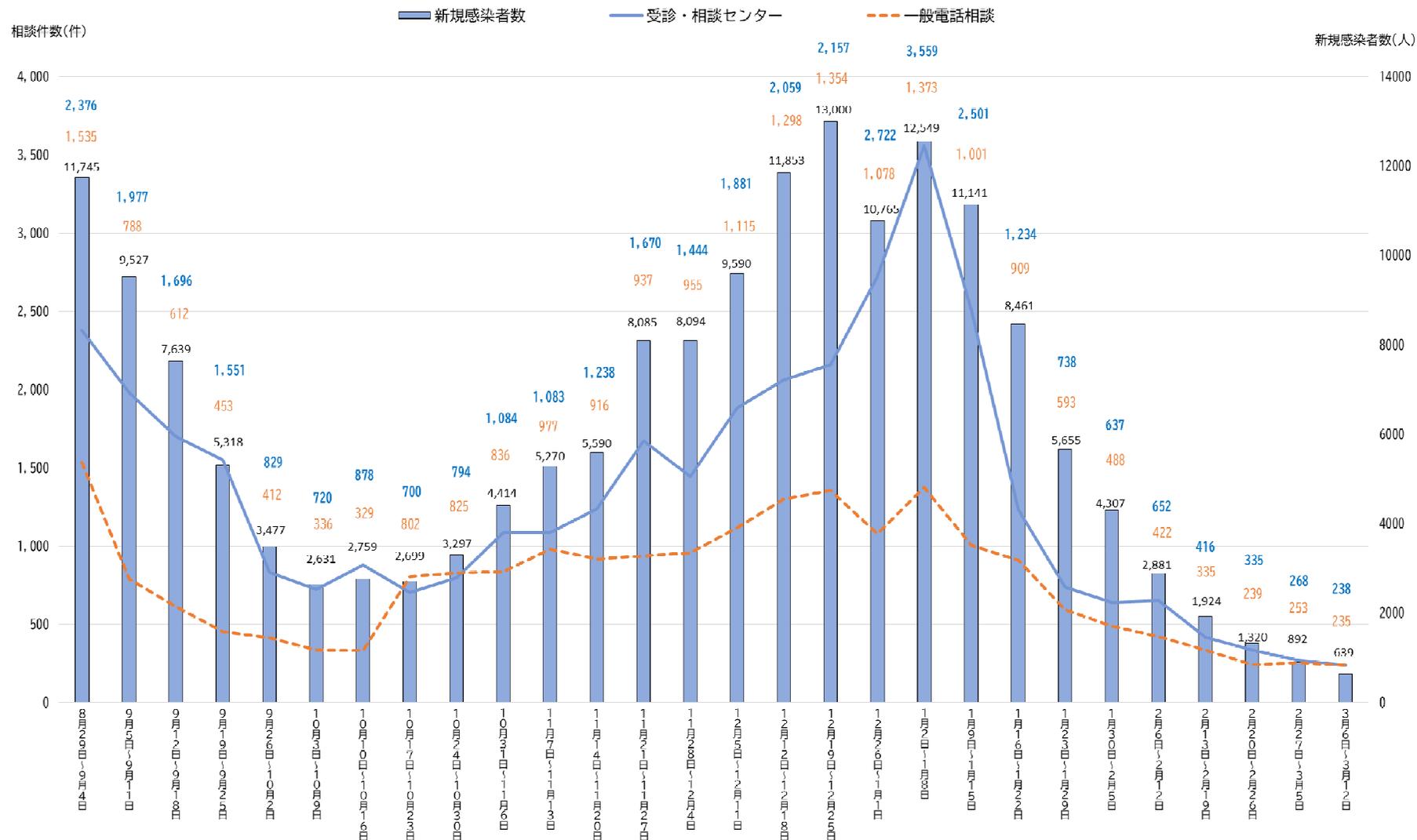
陽性率の7日間の移動平均（その日までの7日間の平均）を見ると、3月10日現在の陽性率は10.5%でした。※検査実施日ごとの報告件数（抗原検査を含む）に基づく陽性率

6)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



7) 相談体制について

相談件数と新規感染者数（週計）



変異株にかかるゲノム解析状況について

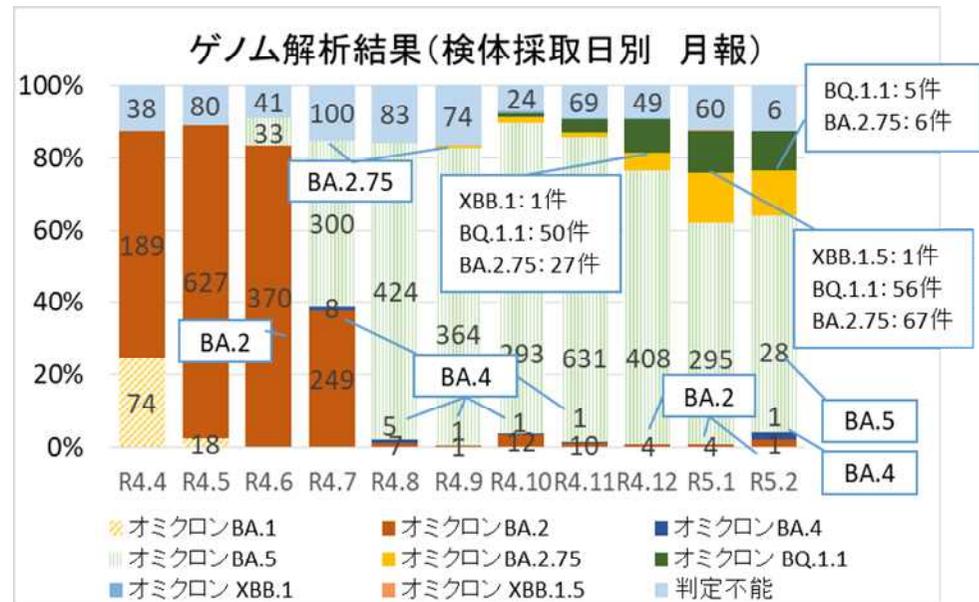
■全国の状況について

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株について(第25報)
(2023年2月10日 国立感染症研究所)抜粋

- オミクロンの中では多くの亜系統が発生しているが、BA.5 系統が65.7%、BA.2 系統が14.6%、BA.4 系統が0.3%、(いずれも亜系統を含む)と、引き続き世界的にBA.5系統が流行の主流となっている(WHO, 2023a)。
- いくつかの地域で感染者数増加の優位性がみられる亜系統も報告されているが、特定の変異株が世界的に優勢となる兆候は見られない。一方で、2023 年第 2 週時点で、BQ.1系統は全世界で検出された株の46.9%を占め、割合は上昇傾向が続いている(WHO, 2023a)。
- 日本では、2月1日時点でBQ.1系統が検疫で98件、国内で9,648件検出されており(GISAID,2023)、第43週(10月24日～30日)には1.4%であったが、第6週(2月6日～12日)においては42%を占めると推定されている(国立感染症研究所,2023b)。
- BQ.1系統、XBB系統ともに、中和抗体からの逃避能の上昇が示唆されているが、重症度、治療薬の有効性への影響についての明らかな知見はなく、今後の国内外での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。

■滋賀県内の状況について

- 本県では、4月1日から3月2日までに6,683件のゲノム解析結果が判明しており、うちBA.5系統が10月時点で85.9%を占め、感染の主流系統がBA.2系統からBA.5系統に置き換わった。
- 10月以降、BA.2系統やBA.5系統を起源とする亜系統(BA.2.75、BQ.1.1、XBB.1)が増加傾向にある(XBB.1.5:1検体検出(令和5年1月))。
- 特に、BA.2.75、BQ.1.1が占める割合は、10月時点でそれぞれ1.5%、1.2%であったのに対して、3月2日現在で12.8%、10.6%となっている。
- 引き続き、検出状況に注視する必要がある。



評価(3/6～3/12の感染状況)

- 全国の新規陽性者数は、9週連続して減少傾向（対前週比が1より小さい。）になっています。
- 本県も減少傾向にあり3月12日時点で今週先週比は0.72、直近1週間における人口10万人当たりの新規報告数は45.2人となりました。50人を下回るのは、2022年1月以来となります。年代別でも、全ての年代で減少傾向にあります。
- 最大確保病床に対する占有率は3月12日時点で13.4%と15%を下回りました。重症病床の占有率は1.9%で低い水準で推移しています。以上の状況から3月7日に現在の感染状況を「レベル1」に引き下げました。
- マスク着用の考え方が見直され、個人の判断に委ねられました。本県では、3月13日から「マスク外してよし！」（原則、マスクを外してよい）として、分かりやすく考え方をご案内しました。手洗い・手指消毒や換気などの基本的な感染対策は継続してお願いします。
- 高齢者施設等で継続して感染者が報告されています。換気が十分でない場合が多く、ケア時の居室や食事時など、人が密になる場面で特に気を付けて換気をお願いします。医療・介護サービスを安全かつ継続的に提供するため、また職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得しそれを実践しましょう。
- ワクチンの効果は徐々に減弱するので、オミクロン株対応ワクチンを接種していない方は、もう1回のオミクロン株対応ワクチン接種を検討してください。
- 本県の第9週(2/27～3/5)のインフルエンザ定点医療機関当たりの報告数は14.18で高止まりの状態にあり、継続して注意報レベルにあります。全国では減少傾向が見られる地域もありますが、引き続き動向に注視が必要です。